

A小研修 2010.7.16

発達障害のある子どもの理解と支援

～通常学級に在籍する気になる子への支援のために～

名城大学 曾山和彦

1

(軽度)発達障害の子どもたち

LD・ADHD・高機能自閉症等の発達障害のある子どもたちが小・中学校の通常学級には6.3%在籍する(2002年、文部科学省)

どうい
子ども?

知的遅れがない
IQ70以上

「軽度」と言われる所以

特異な困難を示す

2

発達障害とは；特徴及び主な障害

- 先天的
 - 症状が発達期(乳幼児期に多い)に出現
 - 生涯に渡る
- 基本的には、脳の機能的な問題が原因とされる

精神遅滞；認知の側面

脳性麻痺、筋ジストロフィーなど；運動の側面

発達性協調運動障害；手先の細かな動きの側面

LD、ADHD、高機能PDD

いわゆる軽度発達障害

通常学級で彼ら自身「困っている子どもたち」

発達障害者支援法 (2005年4月施行)

□ 支援法における発達障害定義

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害をいう。

これまで教育や福祉の支援対象となっていなかったものに対し、国、地方公共団体の支援責務を明らかにした。また、学校教育における支援、福祉増進を目的とするため、対象はやや狭義になっている。

4

知的発達水準 IQの分布



・～70 知的障害児
・70～85 境界線児

5

よりよい実践に向け、はじめの一步 ～気になる子を理解する～

- 発達障害について学び、理解することは不可欠。家庭環境に関する状況理解も不可欠。

<常に心の中で繰り返してきた「二つの言葉」>
・うまく指導してもらえなくてもいい。でも、子どものことは理解してほしい。 (ある保護者)

・教師は専門家である。教育を行う者が、教育を行う子どもについて無知のまま教壇に立つことは、子どもに失礼極まりない。(杉山・2005)

せめて、D・ウィリアムズ等の自伝を読んでほしい

6

何故、障害理解が大切なのか 1

～文部科学省調査結果(2002)より～

明らかな知的遅れがないにもかかわらず、学習や行動面で著しい困難を示す児童生徒は小・中学校の通常学級に**6.3%在籍**する

通常学級担任への質問紙調査結果。質問項目は、LD、ADHD、高機能自閉症に観察される典型的特徴から構成。教師が**必ず出会う**児童生徒である。

7

何故、障害理解が大切なのか 2

～ある少年事件から～

- 少年は精神鑑定で「**広汎性発達障害(PDD)**」を指摘されている。
- 広汎性発達障害(PDD)の人は、**言葉の意味をそのまま受け取ってしまう**ことがある(字義性)。

障害が問題や事件を起こすのではなく、周囲の理解・対応の**不十分さ**が問題や事件の呼び水になりやすい

8

LD (学習障害)

聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する、の中で、特異な困難がある <教育的LD> disabilities = 困難さ

言語性LD: 言語理解、表出、読み、書きの困難
非言語性LD: 空間、身体像、社会的知覚の困難

チェックポイント～スキップ、フォークダンス、縄跳びの困難

読み・書き・計算の障害 <医学的LD> disorders = 機能不全

ディスレクシア

9

ADHD (注意欠陥 / 多動性障害)

「不注意」、「多動性」、「衝動性」の三つの問題が見られる**セルフコントロールの発達障害**

前頭葉の活動が不活発 (ドーパミンなどの神経伝達物質の量、働き!?)

実行機能障害、ワーキングメモリーの障害とも言われる

教室で、特に
気になる子ども

活性化作用のある刺激剤
メチルフェニデート

リタリン コンサータ(日本初の治療薬)



PDD (広汎性発達障害)

- ・三つ組(社会性、コミュニケーション、想像力)の障害を有する
- ・「自閉症スペクトラム」と同義
- ・以下の5つのPDDがある

- ・自閉性障害 (*この中で知的な遅れを伴わないものを、「**高機能自閉症**」という)
- ・レット障害
- ・小児期崩壊性障害
- ・**アスペルガー障害**
- ・特定不能PDD (*非定型自閉症と同義)

上記の中で、高機能自閉症、アスペルガー障害、知的な遅れを伴わない非定型自閉症を「**高機能PDD**」という

11

よりよい実践に向け、次の一步

～学級集団の状態を理解する～

- 学習規律(ルール)が定着している学級には「安心」が生まれ、その安心をベースに、集団内に「ふれあい(リレーション)」が生まれる。「安心・ふれあい」のある学級は児童生徒の居場所となり、満足度の高い学級である。



マズローの欲求階層説

12

教室でできる特別支援教育

～秋田県 ある教師の声;学級集団を育てる～

ADHDの疑いのある小4男児。
暴言等による他児とのトラブルが頻発

<1年間の指導を終えた担任の声>
学級全体へのSST実施、「ルールブック(R.クラーク著)」活用等により、**周りの子どもを育てたら、対象児童とのトラブルが減った。**

参考:親野智可等先生の「ハンカチの話」

教室でできる特別支援教育

～担任の構え;個への配慮はするが深入りしない～

担任は全ての児童生徒にとって、「僕(私)の先生」

40人の子どもと大きな道を歩く

脇道にそれる子どももいる

立ち止まるが、脇道には入らない

いつでも戻れる居場所の確保

「それ方」の程度により校内体制(支援員等)が必要

ハンカチ(学級)を持ち上げる!

一斉指導における個への配慮(諸準備等)例

学習面 ・学習レベルに合わせたプリント準備(2,3学年下げた内容等)

行動面 ・時々、立ち歩く程度は目をつむる
・学習、対人ルールを掲示する(ルール違反の時には非言語メッセージを送る)

対象児を馬鹿にする、えこひいきと反発する場合もあるため、学習や行動の「練習」であること等、他児への説明は必要。また、後の対象児保護者トラブルを防ぐため、保護者面談も必要。

「やや深入り」せざるを得ない場合の他児への課題も準備しておく

現代の子ども像と教室でできる特別支援教育

現代の子どもは、**ソーシャルスキル、自尊心**が落ち込んでいるのではないが

気になる子の存在が、以前より**クローズアップ**されてきたのではないが

気になる子、及び学級集団の状況を理解した上で、次の2点の指導・支援が大切ではないか

1. **人づきあいのコツ(技)**を教える
2. **自分に「OK!」**と言えるようにする

気になる子どもには、より機会を捉えて

LDへの基本対応

例:読みの困難がある場合

・教科書を120%に拡大する
・文章の文節ごとに区切りをつける
・本人に文節ごとに 読ませる

ゆっくり、正しく読めるようになった

教科支援の基本:該当学年より2~3学年下げた内容を!

ADHDへの基本対応

脳の実行機能に弱さがあるため、自らの動機付けが困難故に、**報酬(ご褒美)で行動をコントロールすることが基本**

改善目標を一つ決め、達成したらシールやスタンプの報酬等

主な配慮事項

- ・注意や叱責の何倍もの賞讃を
- ・できていること、できそうなことを賞讃する
- ・賞讃、叱責は直後に明確に
- ・指示は必ず復唱させる
- ・クールダウンの場を設ける 等

「パソコン」というリソースで別人のように変わったA君

参考資料

A児への支援例～やくそくカード


パソコンが大好きで、得意なA児

シールが5枚たまったら、パソコン15分チケットをもらえ

やくそく名前

- 朝の歌をみんなと一緒に歌います (シール1枚)
- 集会に本をもたずに参加します (シール2枚)
- 教室でみんなと一緒に勉強します (シール2枚)
- 放送室で先生と一緒に勉強します (シール1枚)

等




参考資料

A児のがんばり表

が ン ば り 表
スタート 12月5日～12月9日

	月	火	水	木	金
1	国語	国語	算数	国語	算数
2	理科	理科	国語	算数	算数
3	算数	体育	国語	算数	算数
4	算数	体育	国語	算数	算数
5	社会	社会	国語	算数	算数
6	社会	社会	国語	算数	算数

シールをもらおうぞ!



参考資料


A児の自作カード&パスポート

保健室に行きます

職員室に行きます

パスポート

みずびんしょう
4年生 年 月 日
男 年 月 日



PDDへの基本対応

- 一度に一つ
- 視覚的な工夫
- 肯定的表現
- 予定の伝達
- 文化に寄り添う


参考図書

本で教えるソーシャルスキル

対象及び周囲の児童生徒のスキル促進に効果的

ロン・クラーク著
「みんなのためのルールブック」

人付き合いのコツがイラストを通して楽しく学べる。
ADHD児が在籍する学級での実践例。



支援事例

NHKプロフェッショナルより

～自閉症支援・服巻智子～

プロフェッショナルの道具; 白いメモ帳

服巻が必ず鞆に忍ばせているのが、真っ白なメモ帳。
相談内容を聞き取ってイラストにし事実関係を整理する。そしてどうしたら良かったのかを書き添えて、メモを渡す。自閉症の人たちは視覚的な理解・記憶が得意なため、書いて伝えることが大事だという(2007.10.30放送)

主な参考・引用文献

- 「特別支援教育のための精神・神経医学」、杉山登志郎・原仁、学研
- 「気になる子への対応術」、会沢信彦・曾山和彦、教育開発研究所
- 「時々、“オニの心”が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキル・トレーニング」、曾山和彦、明治図書
- 「気になる子ども、まわりの子ども安心な学級経営」、曾山和彦、文溪堂教育マガジン「hito*yume(ひと・ゆめ)」
- 「自閉症だったわたしへ」、ドナ・ウィリアムズ、新潮文庫
- 「我、自閉症に生まれて」、テンブル、グランディン、学研

「学校におけるカウンセリングを考える会」資料
<http://www.pat.hi-ho.ne.jp/soyama>

25